

1 ディベートを取り入れた実践事例

(1) 科目「国語表現」(3年生1単位)

(2) 単元名 「立場を明確にして討論する」ディベート (配当時間8時間)

(3) 単元設定の意図と指導のねらい

文脈をたどらせるとともに、図表や記事文を読み解き、さらに自己の意見として再構築させることはできないかということを目標にして、3年生の国語表現の授業の中で、ディベートに取り組ませた。

(4) 対象生徒

3年生普通科 国語表現選択者 6名

(5) 単元の評価規準

ア 関心・意欲・態度

(ア) ディベートを行うことについて、その趣旨や方法を理解し、準備しようとしている。

(イ) ディベートを行うために必要な情報収集やグループ内の話合いに意欲的に取り組んでいる。

(ウ) 自分の意見を述べるだけでなく、他者の意見に謙虚に耳を傾けようとしている。

イ 話す・聞く能力

(ア) まとめた意見を分かりやすく述べることができる。

(イ) 作成した資料を用いて効果的に意見を述べることができる。

(ウ) 互いの意見を真剣に聞き、自分の意見を筋道立てて説得力のあるものにするために吟味している。

ウ 知識・理解

(ア) ディベートにふさわしい話し方や聞き方、言葉遣いを理解している。

(イ) テーマに沿ってよりよいディベートを行うために必要な語彙を身に付けている。

(6) 評価方法

生徒の学習状況の観察、発表のために作成した資料

(7) 単元の展開と授業の様子

ア 第1時 ディベートの約束事についての講義とテーマの設定

テーマについて特に制限をつけず、自分たちが話しやすい話題について考えさせた。

生徒が選んだテーマは『制服は是か非か』であった。

イ 第2時 調査、資料集めと立論の作成

インターネットで、制服業界の機関誌や他の学校のホームページを閲覧することで得た情報や、自分のクラスの生徒を対象に行ったアンケートを基に資料づくりをしていた。

ウ 第3時 実践と反省

生徒の反省から

「相手の立論に対する反駁がうまくいかなかった。」

「感情的な表現が多く、説得力に欠けた。」

「資料がそろっていないため、どうしても消極的な意見になってしまった。」

「多方面からの調査が必要であった。」

エ 第4時

前時の反省を踏まえて、どうすれば改善できるかを生徒に話し合わせた。

「相手の立論に対する反駁がうまくいかなかった。」

資料が不足していた。相手の立場に立って反論を予測しておく必要がある。

「感情的な表現が多く、説得力に欠けた。」

テーマは、社会問題解決にいたるようなものがふさわしいのではないか。

「資料がそろっていないため、どうしても消極的な意見になってしまった。」

「多方面からの調査が必要であった。」

結論を一つだけに絞って資料を集めるのではなく、多角的に考えて調べる必要がある。調べ時間をもう1時間増やしすとともに、作戦を立てる時間も必要である。

概ね以上のような反省が生徒から出た。それを受けての実践

オ 第5時 テーマの設定と作戦会議

テーマは『ゴミ回収の有料化は是か非か』になった。

カ 第6、7時 調査、作戦会議

キ 第8時 実践

示し合わせたわけではないが、肯定側、否定側とも有料化先進都市のゴミ回収量のデータ、いろいろな企業のゴミ少量化実践、リサイクル実践データ等ほぼ同じものをそろえていた。同じ資料を活用しても、どちらの立論や反駁にも活用できることに生徒たちは新鮮な驚きを感じているようであった。

実践では、前回よりも充実した調査に裏付けられた自信ある発言が目立った。グラフを提示したりといった工夫も見られた。それも単なるグラフの棒読みでなく、自分たちの意見を補強するための材料としてうまく使いこなしていた印象がある。